



第69号
 発行人：小松香織
 編集人：西野嘉一
 発行所：京都市上京区
 下立売通新町西入
 京都府庁日本館2階
 電話：075-451-8146

■ 京都市学・歴彩館府民協働連続講座「第9回都草講演会」



福島 館長

南 調査課長

「第9回都草講演会」が1月16日、歴彩館大ホールで開催されました。今回のテーマは「京都新城」。豊臣秀吉最晩年の居城「京都新城」は長らく文献上でしか確認できず、幻の城と呼ばれていましたが、2019年秋から2020年春にかけて行われた京都仙洞御所内の発掘調査で初めてその遺構が確認され、今世紀最大の発見と大きく報道されたことも記憶に新しいと思います。

この発掘調査を担当された京都市埋蔵文化財研究所の南調査課長には成果報告を、大山崎町歴史資料館福島館長には「京都新城」に関する講演をと2部構成の講演会を企画したところ、約200名が参加しました。翌日の京都新聞にも掲載され、多くの方に知っていただける機会となったこととても感謝しています。長年、多くの発掘現場で石垣調査の経験のある南孝雄氏は、今回見つかった石垣が下層部に濃い色彩のチャート石が、上層部には白っぽい花崗岩が使用されていることに注目され、京都新城は見た目も統一された美しい石垣の城であったことを指摘されました。京都新城はその後高台院が住み、寛永4年の後水尾上皇の仙洞御所造営の際に壊された形跡があることを説明されました。

城郭史と文献史が専門の福島克彦氏は、様々な史料上で「やかた」という表現が徐々に「しろ」に変化していくことを指摘されました。このように文献を丁寧に見ていくこと、秀吉が最晩年に内裏のそばに新しく居城を築こうとした目的、さらには洛中に築かれる「城」の特徴が見えてくると教えていただきました。

このような時期にも関わらずご参加いただいたみなさま、お手伝いいただいたみなさま、心から御礼申し上げます。(副理事長 松枝 しげ美)

■ 200回目を迎えた美化活動



1月19日に平安神宮で行った美化活動で、通算200回を迎えました。これはひとえに会員のみなさんの参加があつて達成されたもので、美化部会として厚く御礼申し上げます。当日は過去3年間（実施回数30回）に多く参加いただいた方10名を表彰、最も多く参加された方は26回でした。

都草の創立は平成19年(2007)4月で、早速7月には第1回目の美化活動が吉祥院天満宮で行われました。都草創立メンバーからは、「京都好きの仲間と京都に関わるボランティア活動をしたい」との思いから始めたと聞いています。それ以来、神社88か所、寺院106か所、その他6か所で実施してきました。一番参加者が多かったのは令和元年(2019)10月に行った仁和寺の47人、また清掃の人手が足りなくて困っておられる若宮八幡宮社と千本ゑんま堂ではこれまで10回以上実施しています。

美化部会では、できる限り新規の社寺を開拓しようと努めていますが、境内をきれいにされている社寺が多く、美化活動の場所の選定が難しくなっています。

また、社寺との折衝（掃除のあとに聞かせていただくお話や見学などの打ち合わせ）や掃除用具の運搬などの苦勞もありますが、美化活動は都草の基幹的な活動として、今後とも都草創立当初の方々の思いを引き継ぎ、楽しく続けていきたいと思っています。

最後に、一緒に活動していただける仲間を募集していますのでよろしくお願ひします。(会員 岡本 正二)

■オンライン子ども百人一首 かるた遊び



百人一首の画面 上の句を聞いて正解と思う札の番号を投票します



ZOOM を利用して百人一首に参加する子供たち

一昨年までは毎年お正月(1月5日)には西陣の町家で、町家のしくみを勉強したり小倉百人一首のかるた遊び、お抹茶体験などを京都文化遺産プラットフォームと都草共催で開催してきました。昨年はコロナ禍で中止となり、今年は是非ともオンラインで開催してはとイベント企画会社の(株)響映との間で企画案が練られ、1月8日(土)に開催することができました。

オンラインであることから参加者は青森から関西一円、年齢も小学一年生から六年生と範囲も広く30名近くのお申込みを受けいささか驚きでした。

さて、このオンラインで百人一首を説明するにはどのように?一番多く詠まれている恋の歌はどのように説明するか?小野篁の紹介でこの世とあの世を行き来するって?わかるかな~と考えさせられましたが、今は学校の授業でオンラインもなされていることもあって、百聞は一見に如かず、意外や皆さん画面に出てきた取り札をいち早くポイントゲットされ、歌の説明もしっかり聞いていただき感激でした。小さい子供さんにはお母さまと一緒にかるた遊びを楽しんでいただくことができました。

アンケートの結果も「とても楽しかった」「また参加したい」と想像

以上の結果で、第2弾を3月27日に開催いたしました。子供たちが伝統文化にふれ、古典を楽しむいい機会になり、とてもうれしく感じた次第です。(文化交流部会 藤井久美子)

■京都検定1級に合格して



京都検定1級に合格することができました。専門が理工系だったこともあり、恥ずかしながら7年前に日本文化に興味をもち、京都に集約されていることを4年ほど前に初めて認識した次第です。

東京在住の私にとって、京都検定の勉強は、場所(地理)と時間(歴史)により限定される特定の人物や出来事(点)を頭の中の京都にプロットし、それぞれの点が結びつけられて小宇宙をかたちづくる楽しみであり、さらに、その小宇宙を時空を超えて自由に飛び回る楽しみでもあります。

この度、検定対策委員会の末席を務めさせていただくことになりました。受験される方のお手伝いをしつつ、頭の中の京都をより色濃く磨きあげたいと考えております。(会員 黒川 恵)



10年ほど前仕事の合間に始めた修学旅行ガイドの下見をするうち、ふとしたことからあまりにも京都を知らない自分に愕然とし、京都を知る機会になればと京都検定受験を思い立ちました。ところが1級となると私には合格のハードルが高く、敗退の連続でした。しかし少しずつ“知らないことを知ると点と点が繋がり線になる”と、学ぶ楽しさに気づき始めました。

受験を諦めかけた時はそのつど出会った方々に励まされました。都草の先輩からは「常に書く!基本はテキスト!」とアドバイスをいただき、続けることができました。

今回も漢字ミス、ど忘れ、早とちりなどは多々ありましたが、おかげさまで運よく合格することができました。これからも京都の知らないことを、楽しみながら学んでいきたいと思っております。

(会員 新田 純子)